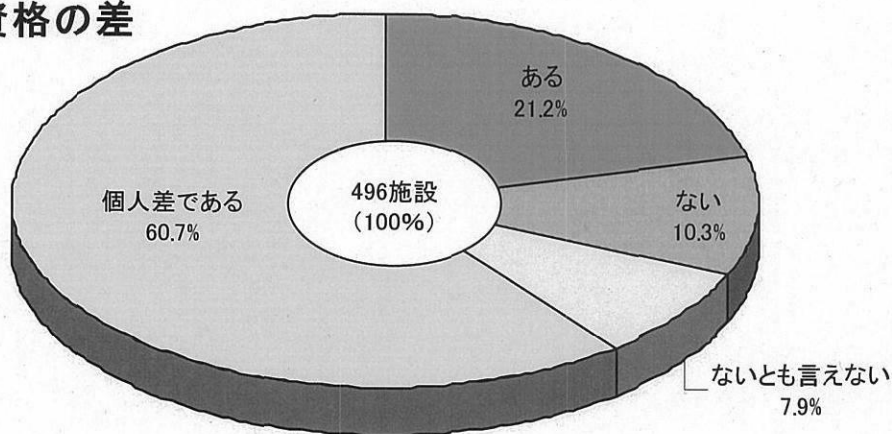


#### IV. 高等学校福祉科（福祉コース）に一番望むことは何ですか？

Ⅲで社会経験が不足している高等学校福祉科（福祉コース）卒業の介護福祉士がより良い介護福祉士になるために今以上に望まれることは何ですか？を尋ねたが、それを補うものとして『一番望むもの』について尋ねたところ、『他人の気持ちを理解できること』38.9%と対人折衝について求めるものが一番多かった。また、施設で求めるのは、高い知識と技術であり、これは福祉科教育に携わる私どもへの要請であり、私どもも従来にも増して努力を重ねる必要を感じる。

また一方、『挨拶・返事が出来ること』が17.7%あり、社会生活における最も基本的なことを望んでいることも理解できた。

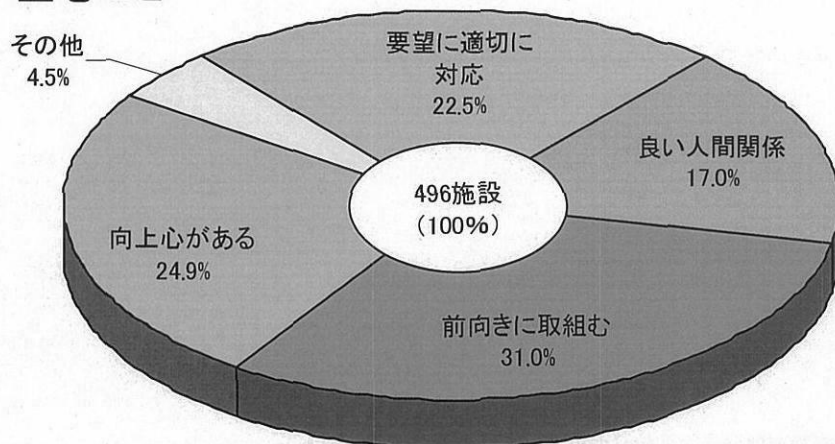
#### V 資格の差



#### V. 高卒資格取得者と専門卒以上の資格取得者との間に差がありますか？

そこで高卒資格取得者と他の資格取得者についての差があるかどうかを尋ねてみたところ『個人差の問題である』が60.7%とアンケートの結果中、第1位の高い率となっており、『全く差がない』が10.3%であり、高校福祉教育に携わるものとして、卒業生のレベルの高さを示すものであり、高校福祉科教育が高く評価されているものと受け止めている。

#### VI 望むこと



VI. 施設として高等学校福祉科（福祉コース）卒業の介護福祉士に一番望むものは何ですか？

今後とも引続き、福祉教育に携わるものに対する指針を与えていただくということで尋ねたのがこの項目であるが、『何事も嫌がらず、前向きに取り組むこと』31.0%、その次が『向上心があること』24.9%となっており、福祉という専門的知識・技術の教育に加えて、仕事への取り組み姿勢・態度を求めていることが理解される。

福祉教育は、専門的知識・技術を修得させることに加え、基礎的な教育を強く求められていることが理解できた。

これらのアンケートから、若い時より明確な目的を持って福祉という職業を目指す意欲に満ちた生徒を、立派な一人前の福祉人として育てることに取り組んできたことを、一層誇りと確信を持つに至った。

## （2）高校福祉教育での介護福祉士受験資格の継続

高校福祉教育は、学校教育面では文部科学省、資格面では厚生労働省と二つの行政機関の関連の中で行われ、介護福祉士受験資格と訪問介護員（1級～3級）資格の取得がある。

現在187校に介護福祉士受験資格があるが、平成16年度は177校で8,419名が受験し、4,118名（合格率48.9%）が合格し、有資格者となっている。

又、平成17年度は介護福祉士受験システム改革がなされ、当校長会に加盟する166校で受講予定者が4,116名いるなど、17年度の合格者は大きく前進することが期待出来る。

今後増々進む日本の高齢化社会、その中で全国1,011校で78,402名もの高校生が、福祉の心を学び、これからの高齢化社会を支えるべく、福祉人としての基礎から専門にいたる知識と技術の修得に努めている。

この事実は、単に就職・進学に役立てるためのみとは思われない。福祉分野に関心を持つ生徒が多いことを示している。

高校福祉教育は、単に量的成果を求めているものではない。あくまでも社会が求めているより高いニーズに対応出来る資質の高い介護福祉士の養成のための諸教育条件を、充実・発展をおこたることではない。

今後、高齢化する日本社会を底から支えるのは、高校福祉教育で学んでいる、高校生の学ぶ力・若い力・やる気からの福祉人かと思われる。これらのことからして、高校福祉教育での介護福祉士受験資格の継続は疑問の余地はない。